

労災ケア通信

第89号
 2024年11月25日
 発行：一般財団法人
 労災サポートセンター
 〒102-0073
 東京都千代田区九段北4-1-3
 飛栄九段北ビル10F
 TEL 03-6834-2510(代表)
 FAX 03-6834-2530
 ホームページアドレス
<https://www.rousaic.or.jp>

ケアプラザだより

ケアプラザ岩見沢

「暑さを忘れられた納涼祭」

入居者 高橋 明子

数年来の異常気象のためか、北海道も真夏日が続き、空調が恋しくなる中、今年も新型「コロナ」の沈静化に伴い、一斉に集い8月7日(水)恒例の行事「納涼祭」が行われました。



「演芸ボランティアななかまど」さん

涼祭」が行われました。

余興にはボランティアの「ななかまど」さん達の数々の演芸が繰り広げられ、笑いの渦となり、嗜好品を頼張りながら一緒に唄を歌い、手拍子を打ち、一口アイスをお口に、暑い夏を涼むひと時となりました。

楽しい時は一瞬にして過ぎますが、この催しを開催するにあたって尽力された職員、ボランティアの皆様に変え感謝したいと思います。暑さを忘れるひと時をありがとうございました。



職員による「手作り風鈴」の飾りつけ

今年度のバス旅行は、「新千歳空港」を目的地として、7月と9月の計2回を実施しました。

「新千歳空港へバス旅行」

総務課

来年も再来年もずっと皆と元気で楽しい納涼祭を迎えられる事が出来たら幸いです。



前列右から2番目：高橋さん



お土産売り場で記念写真



展望エリアから眺める様子



なっています。

実施した7月10日(水)と9月4日(水)は両日とも天気に恵まれ、最高のドライブ日和にもなりました。

参加した入居者の皆さんからは、買物の話や空港でのちよっと贅沢な食事を堪能した話など、たくさんさんの土産話を聞くことができました。

皆様楽しい時間を過ごすことができ良かったと思えました。

ケアプラザ富谷

「好評!!音楽フェスティバル」

行事運営委員会

7月24日(水)「音楽フェスティバル」を開催しました。

昨年、年忘れ会での職員によるバンド演奏が大変好評で、「ぜひもう一度聴きたい」という多くの入居者の方々のリクエストに応え、二度目の開催となりました。

今回は、近隣の演奏ボランティアさん2名と職員有志6名でユニット「C.P.T」を結成し、豪華な迫力ある生演奏となりました。また、今年度より行事委員をお願いしている入居者



入居者様が「岬めぐり」を唄っています



演奏ボランティアと「渚シスターズ」

様にも一曲「岬めぐり」を唄っていただきました。「生演奏で唄うのは初めてだから緊張した。でも、楽しかったよ。」との感想をいただきました。

アンコールでは「花嫁」を皆で合唱して、「音楽フェスティバル」を締めくくりました。

「ウォークラリーで心豊かに」

総務課

10月2日(水)に秋のウォークラリーを開催しました。

当日はよく晴れ、富谷市の最高気温は29℃と真夏日に迫る陽気となりましたが、たくさんさんの入居者の方々にご参加いただきました。

昨年同様、施設の遊歩道にクイズを5問設置し、介護実習にいられた東北労災看護専門学校生徒さんたちのサポートも得ながら、皆で協力して楽しみました。

ウォークラリーの後は恒例の焼き芋大会。施設長が片時も離れずに丹精込めて焼いた焼き芋。

「甘くて美味しい」と、おかわりする方もいらっしやって好評でした。焼



テニスコート横のチェックポイント



東北労災看護専門学校の生徒さんと一緒に挑戦

き栗や焼きマシユマロも振る舞われ、笑顔が絶えませんでした。

入居者の方々が喜んでいらっしやる様子を見て、私たちも幸せな気持ちになり、このウォークラリーを通じて心が豊かになる時間を過ごすことができました。

ケアプラザ四街道

「頑張って良かったヨ納涼祭カフェ」

納涼祭実行委員会

ケアプラザ四街道では、毎年8月初旬に納涼祭を実施しています。

今年は「納涼祭カフェ」と題し、祭囃子を流し、会場を屋台風に飾りつけたうえで小さな水槽に氷を入れて冷やした飲み物やたこ焼き、そして職員が

何度も試行錯誤を重ねた手作りのカップケーキを楽しんで頂くことにしました。

感染防止対策として、入居者の方々にはABCの3班に分かれていただき、班ごとに時間を分けて、皆様が集中しないよう工夫しての開催となりました。



屋台のスタッフとして張り切る介護課長さん



納涼祭カフェの全景

参加された46名の入居者の方々は、「ビー玉の入った瓶のラムネを飲み「懐かしいね。」と話されていたり、また、ノンアルコールビールを飲んで顔を赤くされたりする方もいらっしやいました。たこ焼きやカップケーキも「美味しいね。」と喜んで頂けました。

メニューを考えるなど事前準備は大変でしたが、入居者の皆様に喜んで頂けたので、頑張った良かったな、と思います。

ケアプラザ瀬戸

「防災意識高めた消防・避難訓練」

総務課

毎年9月には、防災の日になみ消防、避難訓練を実施しています。

特に今年は、南海トラフ地震臨時情報が出された事、また先の能登地震においても火事による被害が甚大であったという事もあり、これまでより更に緊張感を持つての訓練となりました。

避難訓練は、食堂から出火したと設定し、各階から徒歩、車いすやベッドごと、それぞれの避難方法を想定して入居者の方々にも参加していただきました。

避難訓練の結果、連絡方法や避難経路等にいくつかの課題が見つかりまし

たので、非常時にはより良い対応ができるよう検討改善していきま

す。

また避難訓練後は消火設備の点検と、実際に消火栓と水消火器を使用した放水による消火体験も行いました。

更には消防署から体験用のAEDセットをお借りし救命講習も実施しました。

職員の方々が、毎日の生活のなかでコツコツと製作された作品や、リハ

開設!! 「ギャラリー瀬戸」

介護課

入居者の方々、昨年の名古屋で開催された「第18回防災重度被災者作品展」に出展された熱意溢れる作品や、心温まる



「ギャラリー瀬戸」の一環として毎日トレーニングルームに通って製作された作品などを展示するスペース『ギャラリーせと』を開設しました。

現在は、昨年名古屋で開催された「第18回防災重度被災者作品展」に出展された熱意溢れる作品や、心温まる



作品が展示されています。
 今後、さらに多くの入居者の方々の作品が展示され、皆様の心の拠り所になることを願っています。
 『ざらりいせと』の看板も素敵ですよ♥(職員のお母さまによる力作です) 感謝!!

ケアプラザ堺

「コロナ禍後、外部病院による

グループリハビリ再開!

入居者様に笑顔が広がる」

介護課



キツイ、面白い、輪投げリハ

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で長期間中断していた外部病院によるグループリハビリが再開されました。このリハビリは、入居者様の身体機能の維持・改善や精神的サポートにとても欠かせないものです。
 再開にあたっては、感染予防対策を徹底し、医療専門家が入居者様の状態を考慮しながら対応しています。入居者様からは「久しぶりに身体を動かせて嬉しい」との声が寄せられ、健康促進や入居者様間の交流にも大きな期待が持たれているため、今後も定期的

実施する予定です。

「美味しいなあー工場見学」

介護課



見て楽しい、食べておいしい工場見学

まだまだ残暑が続く9月4日(水)、事前に参加希望のあった9名の入居者の方々とお菓子の工場見学に行きました。
 道中のドライブも楽しみながら、阪南市にある青木松風庵「月化粧ファクトリー」に到着しました。最初に案内されたシアタールームでは、名物のみるく饅頭「月化粧」の誕生秘話などをおよそ10分間視聴し、その後、製造工程の見学をしました。見学の後には試食もあり、出来立てのまだ温かい月化粧を片手に「美味しいなあー」と、皆さんご満悦の様子。
 試食後は、皆様思い思いに買い物を楽しまれましたが、小さな歓声が

上がったので振り返って見ると、なんと入居者の方がくじ引きで1等の当たり!!(ちなみに執筆者は4等の飴ちゃん1個でした)
 現在は、感染対策で多人数での飲食を禁止していますが、次の機会には、イートインスペースで購入したお菓子を和気あいあいと召し上がるお姿を拝見することが出来たら良いのになあ…、と思いました。

ケアプラザ呉

「感動!!シターコンサート」

総務課

9月25日(水)、広島在住のヴァイオリン、シター奏者の白井朝香さんにお越しいただき「シターコンサート」を開催しました。

シター(Cithare)は、神を賛美する歌や感謝の祈りの伴奏楽器として伝えられてきたもので、共鳴箱に平行に弦を張り、弾いて音を出す楽器で、日本語の「琴」を意味しているそうです。

120本余りの弦を張り、右手で旋律、左手で和音を指で弾いて演奏する素朴な楽器で、優しい響きをもつ癒しの音色が特徴です。

今回「シターで奏でる命への賛歌



ギター演奏とともに合唱♪

〜』というタイトルで、「愛の讃歌」、「いのちの歌」、「赤とんぼ」など13曲を演奏していただきました。

参加された入居者の皆様は、時折体を揺らしたり、□ずさんでおられたりする様子が見られましたし、中には感動のあまり、涙されている方もいらつしやるなど、ステキな時間を過ごすことが出来ました。

「満足、満足、納涼お食事会」

介護課

8月7日(水)、例年以上の暑さが続くなか、毎年恒例の納涼お食事会を開催しました。

食堂に職員手作りの紙細工や、アサガオ、ヒマワリなどの夏らしい飾りつけをして、入居者の皆様をお迎えしました。

今年のメニューは、ちらし寿司、サ

イコロステーキ、ポテトサラダ、煮物メロンと彩り鮮やかで、見た目とても美味しそう。

また、もう少し食べたいという方のために、バイキング形式で、アメリカカンドック、たこ焼き、冷やしそうめん、焼きドーナツ、ムース、フリードリンクなどを準備しました。特にアメリカカンドックとたこ焼きが好評でした。

日頃は居室で食事をされている入居者の方が、食堂で食べたいものをご自身で選び、普段はあまり飲食の機会がない焼きドーナツやノンアルコールビール等で満喫されているご様子でした。入居者の皆様から、

「お腹いっぱい満足した。」

「入口から見えるヒマワリが、よく見えて綺麗だったよ。」

と、お食事だけではなく飾りつけにも満足していただけただけで、準備にあ



豪華なお食事

たった職員も、やりがいを感じることでできました。

ケアプラザ新居浜

「実地研修に参加して」

7月17日(水)、四国中央医療福祉総合学院看護学科の生徒に施設長及び介護課長が講師として実地研修を行いました。

受講生より感想が届けられました。なのでご紹介させていただきます。

四国中央医療福祉総合学院

看護学科 中原 佑輔

私達、四国中央医療福祉総合学院看護学科の学生は、地域の生活を支える実習の一環としてケアプラザ新居浜の見学をさせていただきました。身体障害者の方の施設での生活や施設の利用者に対する支援の在り方について、様々なお話を聴かせていただきました。

その中でも、同じ利用者のリハビリテーションの援助においても、介護・看護師と作業療法士では視点が異なるなど、多職種連携の大切さについてのお話に感銘を受けました。

例えば、介護・看護技術の一つでもある体位のポジショニングも、作業療法士の専門的な視点を取り入れること

で、より個別性の高い技術となることです。

これは一つの例ですが、利用者様と最も接する時間が長い介護・看護師の方は、他の専門職との密にコミュニケーションにとることで情報の共有が図られ、より良い介護に繋がっていくのではないかと思います。

また、ケアプラザに入居されている方には、労災による受傷のショックを何年間も引きずっておられる方が多く、心の病気を発症する方も多いというお話も印象深く感じました。

私は、障害の受容過程を習い、身体障害者が障害を受け入れるまでの過程を理解したつもりになっていました。しかし、受傷した当事者にとって障害を受容することは決して容易なことではないのだと思いました。そして、改めて障害を有されている方の心に寄



実地研修を受講している
前列向かって右から2番目が中原さん



ビンゴ大会の景品を授与される入居者（堀）様と施設長



食事を楽しむ入居者（渡部）様と介護職員（三木）

り添う看護を実践することの大切さを痛感しました。
今回ケアプラザ新居浜で学ばせていただいたことをこれからの看護学生としての歩みに活かしていきたいと思えます。
ありがとうございました。

【楽しい食事とビンゴ大会 納涼祭にて】
総務課 加藤 佑奈

令和6年7月24日（水）、ケアプラザ新居浜の1階会議室と多目的ホールにお祭りの飾りつけをして、昼食を兼ねた納涼祭を開催しました。

ように、焼きそばやフランクフルト等をご用意したところ、お祭りの雰囲気を感じていただけたようで、入居者様も喜んでいました。
また、食事を楽しんでいただきながら行ったビンゴ大会では、10位までに入賞された入居者様に景品をお渡しし、プレゼンターの施設長と仲良く写真を撮るなど、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

ケアプラザ宇土

「栄養士になるために」

尚綱大学短期大学部 実習生

私たちは9月2日から6日までの5日間、ケアプラザ宇土での施設実習でお世話になりました尚綱大学短期大学部食物栄養学科の木村・伊藤・田中です。

実習期間中、この施設の概要や入居者様の特徴、食事について学習したことをもとに調理実習や配膳を行いました。また、入居者様の居室を訪問し、食事についてのアンケート調査を実施しました。入居者の方からいただいたご意見は様々で、普段の食事についてどう思われているのか知ることができました。

この実習を通して、施設の給食がど



実習の合間に、入居者様と。実習生は、右から木村さん、伊藤さん、田中さん

のように運営されているのか、入居者の方にどのように声をかけ、コミュニケーションを取ると良いのか学ぶことができました。ケアプラザ宇土での実習でたくさんの方との出会いもあり、とても充実した実習になりました。ありがとうございました。

【買い物ツアー】
ボランティア活動を通して
行事運営委員会

8月28日（水）、買い物ツアーを開催し、高校の生徒さんにボランティア活動の一環として、入居者の皆様の買い物を手伝っていただきました。その感想を投稿いただきましたのでご紹介します。

初めてボランティア活動に参加しました。労災によって障害を持つことに

なってしまった方々が対象だったので、もしかしたら気を悪くしてしまう行動を知らずにしてしまうのではないかと少し緊張していました。

しかし、交流した方々は皆笑顔で、自分に合った趣味を見つけて楽しませていました。その趣味に向けておられる気持ちはとても一生懸命で、話している私達も元気をもらえました。会話を続けていくにつれて、いつの間にか私の緊張もほぐれ、一緒に買い物を楽しめていました。

また、2番目に買い物を手伝った入居者Aさんは、趣味である「ぬり絵」を私たちのために塗ってきてくれてとても嬉しかったです。

今回のボランティアを通して、人との交流で心を交わすことはとても大事で素敵だと思います。

今後も積極的にボランティア活動に参加していきたいです。



「どれがいいかな？」
「これとかいいんじゃないですか？」